



日本語尾音索引—現代語篇—

田島 毓堂 共編
丹羽 一彌

笠間索引叢刊 65

目 次

あ	1	は	263
い	2	ひ	266
う	43	ふ	270
え	99	へ	275
お	102	ほ	275
か	104	ま	278
き	112	み	281
く	133	む	286
け	164	め	291
こ	170	も	294
さ	176	や	297
し	178	ゆ	302
す	197	よ	306
せ	208		
そ	209	ら	312
		り	317
た	212	る	330
ち	216	れ	351
つ	223	ろ	354
て	239		
と	242	わ	358
		ゐ	360
な	253	ゑ	360
に	255	を	360
ぬ	257		
ね	257	ん	361
の	259	ー(長音符)	416

例 言

1. 本篇は西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫氏編「岩波国語辞典 第二版」(1976年7月20日第2版第7刷)に収載されている全語彙(見出項目と追込項目と)を逆綴にしたものの五十音順索引である。
2. 配列に際し、拍を単位とすべく考えたが、主として拗音、及び外来語音にみられるヴォ・ティ・ファ等の扱いを考えて、すべて文字を単位とした。従って、語尾が「…ショ」となる語は「ヨシ…」の位置に見出すこととなる。
3. 従って、正確には、尾字による索引であるが、尾字がほぼ尾音を示していると見て「尾音索引」と称した。
4. 外来語に限って「ー」(長音符)が用いられているが、これはすべて「ン」の次に配した。
5. 同一の綴字の場合は、底本の順にした。
6. 右列には、底本【 】内の漢字部分のみを示した。二種類以上の漢字が宛てられている場合は最初のを掲げた。但し、底本で漢字の宛てられていないものは適宜編者が()内に漢字その他の注記を施した。また、仮名の部分を省いたため不自然になるものがあるが、ときに、仮名部分を——で示した(例、おしあいへしあい 押合——合)。
なお、底本には、一見出語が二項目以上に分けられていて、それぞれに別の漢字が宛てられているものがあるが、本篇では、すべて第一番目の漢字を採用した。
7. 底本にみられる種類の符号・記号は一切省略した。但し、一字漢字には、< >を付し、文語は†印を付した(但し、底本で一見出語中の第二項以下のものに文語の印のある場合には†をつけない)。
8. 漢字の字体は底本を尊重するをむねとしたが、印刷事情により、通行字体に従ったものがある。その他すべて底本に忠実たらんとしたが、誤り、見落しもあると思う。御批正を乞う。
9. 語末辞書のこと、及び本篇協力者についてはあとがきを御覧願いたい。

以上

の協力がなかったら、本書の完成はまだずっと先のことになっていただろう。

有馬かおる	伊左次まなみ	石原 史子	市川 孝子
井上 秀代	上田加代子	上地みどり	春日 咲子
倉田 育子	小山 恵子	近藤美智子	佐野 裕子
佐橋 美典	篠木 純子	島 充代	鈴木 敬子
鈴木 淳子	鈴木 好子	高井 直子	高須貴美子
竹内 朋子	竹内 春美	竹林千賀子	田島 淳子
田中 文江	千頭和ひとみ	土屋美登里	堂地 芳美
永井 幸子	中川 貴代	中野恵理子	中村 広子
中村由理子	西山 祥子	日東 智子	野田 好美
服部 恭子	林 のり子	尾藤ひとみ	福田ともよ
福谷 京子	前田あさみ	松原三津子	松村由美子
村松美保子	山口 訓代	山田 順子	山田三千代
若菜あや子			

最後に、本書の出版に際しては笠間書院の池田猛雄氏に種々お世話になった。
心より御礼申し上げたい。

昭和52年9月

丹 羽 一 彌

(校正を終って)

本篇は底本たる「岩波国語辞典第二版」にできるだけ忠実たらしめた。校正中、しばしばわれわれの普通に考えている語形と異なるものがあった。底本にあたり直すと、その普通と思う語形も「…ともいう」という形で示されていることが多かった。それを一項として立てるのも一つの行き方であるが、今回はそれはみおくれた。その点、不審を招きかねないので一言お断りする。

また、複合語等で、同一部分を表わすのに別の漢字が宛てられていることがかなり目についた。それは底本編者の意のあるところもあると考えられる。しかし、それ以外に、実は二種類以上の漢字表記が示されている場合に、本篇で、その第一のもののみを掲げたことがその原因になっていることもかなりあるので、特にことわっておきたい。

そのほか、()内注記にも、品詞名等を記したものは、底本に二つ以上あるものも一つしか書いてない。

以上のごとき点、校正中に強く感じ、もし再版、改訂ということを考えることがある場合には充分考慮すべきものであるが、今回はむしろ底本の姿を忠実に伝えること(とはいえ、ミスのあることは避けがたいが)に最重点を置いた。一言申し添える。

(田 島 毓 堂 識)

●編者紹介

田島毓堂 (たじま いくどう)

昭和15年5月 生れる
昭和43年3月 名古屋大学大学院博士課程単位取得
昭和48年3月 文学博士(名古屋大学)
現 在 名古屋大学助教授
専 攻 国語学
編 著 書 「道元禪師全集」(上・下)索引「後撰和歌集研究史」「源氏物語絵巻詞書総索引」「正法眼蔵の国語学的研究」其他
現 住 所 〒450 名古屋市中村区名駅2丁目28番7号

丹羽一彌 (にわ かずや)

昭和14年9月 生れる
昭和43年3月 名古屋大学大学院修士課程修了
現 在 東海学園女子短期大学助教授
専 攻 言語学
著 書・論 文 「ことばへの接近」「フランス語の文構造と副詞」(「ロマンス語研究」6, 1972)「トル・ヨル考」(「東海学園国語国文」11, 1977) 其他
現 住 所 〒487 春日井市白山町170街区2

にほんごびわんさくいん
日本語尾音索引 一現代語篇一 ●笠間索引叢刊 65

昭和53年9月30日 初版発行 ￥7,000

検印
省略

共 編 田島毓堂
丹羽一彌 ©
発行者 池田猛雄

発行所 有限会社 笠間書院
〒101 東京都千代田区神田神保町1-46
電話03-295-1331(代) 振替東京1-56002

3381-852065-0924

三美印刷・手塚製本所